

令和2年度 学校評価(自己評価)

令和3年5月14日

ルネサンス高等学校
学校評価・改善委員会

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に ・目覚めよ！自分力。やりたいことにチャレンジ ・徹底的な個人指導と親身なサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 ・いじめの防止等に関する措置を実効的に行うためにいじめ対策委員会を運営する。 ・コンプライアンスの取り組みを強化し、より質の高い学校運営をする。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方策
学校運営	教育課程	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた適切な支援・指導を目指せるものになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程は、左記「具体的な評価項目」の実現のために、標準的な履修科目以外の科目も柔軟に選択できるように編成されている。 ・入学時や進級時の履修相談にあたっては、可能な限り生徒の希望に応じた履修となるよう努めている。 ・「報告課題」(以下「レポート」と表記。)、 「面接指導」(以下「スクーリング」と表記。)、その他のインターネットなどの多様なメディアを利用して行う学習(以下「メディア学習」と表記。)、 「試験」の編成・実施にあたっては、可能な限り個々の生徒の状況を配慮した柔軟な対応に努めた。 	レポート・スクーリング・メディア学習・試験等の具体的な学習の展開においては、引き続き、アンケートや日々の生徒とのコミュニケーション等を通して、生徒のおかれている現実や学習面の理解度等の把握に努める。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に準拠しているか。また、その編成・実施の考え方について教職員間で共有ができていないか。2022年度からの新教育課程についての対応の準備は進んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程は学習指導要領に準拠している。 ・教育課程の編成、実施の考え方についての共有はできている。 	特に精神的及び学力的に不安のある生徒の平素の学習状況については、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制を更に整備していく。
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用され、新任教員へのサポートも適切に行われた。 ・コンプライアンス研修を毎月オンラインで行うなどして、その充実にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や各委員会、主任体制など、学校運営・責任体制の整備には、研修を継続し、不断に努力したい。
		教員・教科間の連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築された教育活動が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、引き続き職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があるか。また、それらの機会を通して、相互理解及び連携がとれているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な職員会議やミーティングをオンライン会議システムも活用しながら行っており、その中で教員と事務部門での情報共有・意見交換の場面設定も行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各主任、主事が適宜自発的に会議を招集していく体制づくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
		会議の有効性	職員会議や運営会議、スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能しているか。	A		
	学校設置会社及び財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校を運営するにあたり適切なものとなっているか。また、その状況は学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 	引き続き適切な運営、情報公開に努める。
		学校の経営に必要な財産等の状況	学校を運営するにあたり適切なものであるか。また、その状況は学校の経営に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設置会社の経営及び財産に関する状況が事業報告書に適切に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 ・なお、より永続的、安定的な学校経営を行うため2020年度より運営会社の変更を実施した。 	
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務について点検体制を確立し適正に執行しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援金については事務体制を維持し適正に執行されている。 	引き続き、担当職員の業務内容習熟を図り、適時性・正確性を確保する。
	施設及び設備	面接指導等を実施する施設・設備	面接指導等を実施した新校舎の施設・設備は教育上適切であったか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教室数増など環境向上を図るために特区内施設(旧大子町立黒沢小学校)に校舎を5月に移転した。 ・スクーリング(面接指導)は特区内の学校で適切に行われた。 (※本年度は内閣府・文部科学省からのコロナ禍における対応策として「特区外スクーリング」が認められたが、連携施設のある東京都の感染状況を踏まえ、大子町の指導と助言のもとに、施設でのスクーリング実施については控えた。) ・各科目毎に可能な限り別教室(一部同教室別ブース)で実施した。 	「特区外スクーリング」も可能な限り活用しつつ、より適切なあり方で実施できるよう努める。
		連携施設	連携施設で学習面、生活面の支援が適切かつ十分に行われているか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上欄※に記したとおり、連携施設の新宿・代々木キャンパスでは、スクーリングや試験は行わず、本校教職員による学習支援、課外活動等が適切に行われている。 ・本年度は特に、「生徒及び教職員の新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動等のマニュアル」(以下「行動マニュアル」と表記。)を作成し、それに基づいて、適切に学習支援、課外活動等が行われた。 	連携施設における学習支援、課外活動等の内容の不断の充実を図る。
	危機管理	役割分担	事故・災害などに対する教職員の連携及び役割分担が明確になっているか。	A		
安全管理		安全な学習環境づくり(新校舎の内外の安全点検管理及び諸活動)を推進しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれており、事件・事故・災害などの際の対応体制も整っている。例年以上に大子町の指導と助言を仰ぎながら、スクーリングや学校行事等を適切に運営した。また、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の学校三師との連携を図った。 	*・災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。	
危機管理対応状況		危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	A			
個人情報管理		生徒情報管理が適切に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーマークを取得している。(2017年) ・個人情報管理に関する研修も定期的に行っており、生徒のプライバシーの確保を維持している。 ・コンプライアンス研修をオンラインで毎月行うなどして、その充実にも努めた。 	研修体制をさらに整え、生徒情報管理の徹底を図りたい。	
	スクーリング参加状況	年間計画に基づいた実施と参加の促進が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実施が困難な状況であったが、町と協議して特別スクーリングを編成をするほか、適宜代替措置を利用しながら、卒業進級を滞らせることなく進めた。(特別スクーリング・代替措置の詳細は下欄) 	今後も状況を注視しながら、生徒ならびに大子町民の安全を最優先させつつ、適切・適正な要領での実施に向けて努める。	

教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング(面接授業)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に則り、適正な時間数・規模で行われているか。 ・各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。 ・新型コロナウイルス感染拡大等への対応は適切であったか。(追加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大子町の指導助言を仰ぎながら、本年度は以下の対応をした。 【4月～12月:特別スクーリング17回】～「密閉・密集・密接とその重なり」を可能な限り回避させるため、一団体の人数を半減させ、且つ分散させた生徒配置による40分の短縮授業の展開した。また休憩時間を長くすることで、授業の事前事後の殺菌消毒・換気の徹底を図った。また、一部の科目(理科・英語・保健体育・美術)については8割減免の時間数とすることで、2泊3日の短期間で必要な面接授業を満たせるよう回った。なお、これらを展開するにあたっては、教材の精選と理解度確認等の工夫を図り、授業の質の維持確保に努めるほか、生徒の多様な履修と修得に対応できるように努めた。 ・スクーリング時の生徒の行動及び教職員の対応等については、「行動マニュアル」を作成し、それに基づいて適切なスクーリングの運営がなされた。 【1月～3月:スクーリング代替措置8回】～国・茨城県・東京都の緊急事態宣言を受けて、スクーリング自体を中止とし、特別に用意した課題の学習をもってその代替とした。 ※ただし、3月の最終スクーリングについては、緊急事態宣言解除に伴い、特別スクーリングを再開実施した。 ・スクーリングの実施形態あるいは代替措置については、茨城県・生徒居住自治体・集合同所ならびに特区外スクーリング実施地である東京都の状況の3つの観点別の対応基準を定めた「関連3自治体のステージ別スクーリング対応・代替基準表」(以下、「基準表」と表記。)を作成し、一貫性をもちつつ且つ臨機応変に実施・代替できるようにした。また、実施の際には、生徒や保護者へのヒアリングを行い、心理状況や体調ならびに家庭環境を可能な限り配慮するように努め、止むを得ない場合は代替措置への変更を促した。 ・特別スクーリングの際にも、複数科目をまとめて面接指導することなく科目ごとにおこなった。 ・スケジュール作成・授業編成にミスがないよう管理システム上でのチェック体制は維持されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変異株の感染者拡大等が十分に懸念される現状から、町との協議の上、次年度は、以下の要領にてスクーリングを実施する予定となっている。 ①3密回避の2泊3日の特別スクーリングの継続。 ②ただし、国語・地理歴史・家庭・特別活動の各4単科目の面接授業時間数を8割減免対象に加えることによる授業時間40分から標準の50分へ戻し、更なる授業の質の向上に努める。 ・上記の実施にあたっては、状況に応じて左記の「基準表」に基づきつつも、各生徒の諸状況を十分に配慮し、柔軟に対応する。 ・令和3年度からは、代替措置の中にオンライン授業も取り入れることで、生徒の学びの質をより向上させることに努める。 ・精神的及び学力的に不安のある生徒については特に、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で連携し、よりきめ細やかに支援できる体制をさらに整備していく。 ・各授業については、学習指導案作成の徹底とともに授業参観・事後評価等を通し、その更なる質の充実・向上を図りたい。 	
		レポート内容・添削	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に則り、興味・関心・意欲が高まるよう教材の内容を工夫するとともに、複数メディア導入に伴う生徒の学習成果の確認を的確に行っているか。 また、インターネットを活用した添削指導に遅延がないよう、計画的に業務を行っているか。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説を加えた指導を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアを含む学習内容は、生徒の学習成果(興味・意欲・関心)が上がるよう、引き続き細やかな改善に努める必要がある。 ・添削指導に遅延がないよう計画的なメールアナウンスがなされている。 ・レポート添削については、択一問題で不正解になったレポートに対する個別解説や指導を充実させ、より生徒一人ひとりの習熟状況に応じたものにした。 ・添削指導については本校所属の教員が行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より、オンラインでの進路指導・小論文指導・学習サポート等を実施する。このことで生徒の学びをより充実させるとともに、「ネットの高校」としての特長の一層の強化を図る。 ・メディア学習の内容を、生徒の実態を勘案しつつ、より適切なものへと不断に改善していく。また、全てのメディアについて、計画的かつ継続的な学習に十分な視聴時間を確保する。 ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説や指導を目指していきたい。 	
	試験	試験の実施	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果が適切に評価できる時期に試験を実施しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験は、本年度からオンラインでの実施に変更した。 ・個人の認証については、本年度は筆跡によって行った。 ・実施時期は、適切な時期に実施するよう努めており、本年度は1月から実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の就学状況・履修状況に応じて、試験がさらに適正な時期に無理なく実施できるよう編成するよう努める。 ・受験生徒の個人認証については、次年度より、顔認証とする。 	
	情報発信	ネット回線の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 独自でネット開設している連絡・学習サイト「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記「マイページ」により、学校イベントなどの情報提供を行うほか、本年度は特に新型コロナウイルス感染拡大防止に努めたスクーリングを実施していることを告知し、安心して参加できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用して、生徒の心の成長を助成したり、自己実現をサポートできるよう努めていきたい。 	
		個人に対する効果的な情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 上記「マイページ」にて、生徒及び保護者が、学習進捗の確認や各分野毎(進路など)の情報が閲覧できるようにしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な発行物「ルネ高通信」を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。 		
	情報教育	情報能力知識	<ul style="list-style-type: none"> 各種活用能力の知識を向上させているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(iPad等)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、生徒がより活用能力を高めることができるよう努めていく。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めていく。
		情報モラル指導	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組んでいるか。 	A		
	生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)が高められているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒指導ができるよう努める。 ・SNS等の活用のほか、定期的な発行物「ルネ高通信」や、インターネット上の生徒への連絡・学習サイト「マイページ」を通して、組織的な生徒指導の更なる充実を図る。
			教員の共通認識と研修	<ul style="list-style-type: none"> 学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう、共通認識のもと、情報の共有を図りつつ整合の取れた運営がなされているか。 また、生徒の実態に応じたテーマについて、計画的な教員研修を実施しているか。 	A	
		家庭との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> 計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるよう支援しているか。 	A		
いじめ等の問題行動の未然防止		<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が安心した学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会が設置され、適切に運営されているか。 	B			
進路指導	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしているか。 本年度導入の「大学入学共通テスト」等への進路指導・生徒対応は充分に行えたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に生徒・保護者への情報提供を実施している。 ・受験対策指導(筆記・面接など)の更なる工夫を模索していきたい。 ・進学や就職をせずに、在学時のアルバイトを卒業後も続けるに留まる生徒が少なくない現状があるので、これを改善させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について、担任全員が最新情報を共有し、進路指導主事を中心に、よりきめ細やかで適切な進路指導を行える体制を整える。 ・1年次から(入学時から)、進路実現に関する意識付けと計画的・継続的な進路指導施策を講じていきたい。 	
	保健指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成しているか。 新型コロナウイルス等への対応およびその保健指導は適切に行えたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングの特別活動(健康)時に、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取組みを行っている。 ・上記「マイページ」に、新型コロナウイルスに、感染しない・させないための日々の生活での注意事項等を掲載するなどの啓蒙を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による定期連絡やマイページへの「保健だより」の掲載等を通して、在宅時の健康保持増進を生徒に平素から呼びかけるほか、日々の体調管理を各々がするためのチェックシート(確認事項)の提供することで、生徒・保護者が生活状況・健康状態を自己診断できる仕組みを作りたい。 ・今般の状況にあっては特に、文科省ならびに大子町等関係機関の通達・指導を仰ぎながら、上記について、一層の努力を図りたい。 	
その他	学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 「大子町通信制単位制高等学校審議会」ほか学校関係者による評価・それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通じ、開かれた学校づくりが進められているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校が、お互いに理解を深めるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> より充実した関係者評価を実施し、その公表に努める。もって教育の質の向上、学校運営の改善に努める。 	
	教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のオンラインによるコンプライアンス研修のほか、茨城県通信制高等学校等連絡協議会主催の研修会への参加に努めた。 ・姉妹校合同による初任者研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の実施回数を更に増やし、教職員のスキルアップを図る。 	
	他校及び関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校(豊田校・大阪校)や県私学通信制定時制高等学校連絡協議会加盟校と、通信制高校の在り方などについて情報交換等を行い、学校全体の教育力を高めることに努めているか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月行われる設置会社主催の本部会議において、姉妹校との情報交換等を行った。 ・茨城県通信制高等学校等連絡協議会にも参加し、情報交換等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校があることのメリットを最大限に活かし、連絡を密にとり、運営方法全般に関する事例等を共有できる仕組みづくりをさらに整えていくなどして、教育力の向上を図りたい。 	

